



日本共産党 京都市議員
ひぐち英明
議会報告

みなさんのご意見・ご要望をお寄せください！

こんにちは ひぐち英明です

第316号 2017年6月1日

連絡先：日本共産党左京地区委員会 Tel.761-6341
：左京生活相談所 Tel.781-6622

HP: ひぐち英明

検索

口先だけの「文化首都」を露呈 美術館所蔵作品の破壊計画



破壊されたものをつくる作品

京都市美術館は現在再整備工事が始まっています。再整備工事そのものにも問題がありますが、その工事の際に、工事の範囲から外れた位置の前庭に展示してある、美術館所蔵の彫刻作品を、切り刻んで撤去する計画であることが判明。美術関係者のみなさん、及

び作品の制作者からも破壊をやめるよう次々と声が出されてきました。議会には陳情も提出されています。

京都市は、作品の近くの地中に汚染土壌がある、作品の耐震性に不安がある、ということ撤去の理由にあげていますが、汚染土壌は埋まっている間は特に問題はありません。また、耐震補強が必要であれば、様々な工夫が考えられますが、撤去ありきで話を強引に進めようとしていることは全く納得ができません。

最近では、日本文化の指導者としての功績をたたえて京都市が名誉市民にも選んだフランス文学者の桑原武夫さんの蔵書 1万冊（ご遺族が市に寄贈されたもの）を、市が廃棄処分していたことが大問題となりました。それに加えて、京都市美術館の所蔵作品をまともな理由もなく破壊しようというのですから、「文化首都・京都」などと市長が言っている言葉が、いかに口先だけのものであるかがよくわかります。

市民からの批判の高まりの中で、所蔵作品の破壊工事は一時中断されていますが、計画そのものは撤回していません。市民の財産である芸術作品を守るとともに、京都市が文化芸術の振興・発展にしっかり取り組む姿勢へと転換するよう求めていきます。

市内の学生6万人以上が奨学金を利用 重い「高学費」と「奨学金返済」

京都市の調査でも、市内の学生 6 万人以上が、返済が必要な奨学金を借りている実態が明らかになっています。高すぎる学費を払いきれずに奨学金を借り、卒業時には何百万円という借金を背負うことになってしまっています。

こうした状況を変えようと活動している LDA 京都（生きやす

い京都をつくる全世代行動)のみなさんと繰り返し宣伝をしています。

先日は出町柳駅前ではシール投票なども行いながら宣伝をしていると、ある学生さんが「奨学金は返済が大変だから借りないことにしたけど、親も学費が払いきれないので、祖父母に学費を出してもらっている。申し訳ないと思っているけど、周りにもそういう人がいる」と話してくれました。

困難を抱えた青年が確実に増えています。親の世代、祖父母の世代まで含めて負担がのしかかっている現状を変える必要があります。



出町柳駅前でシール投票&宣伝

写真トピックス



左京「働き方」プロジェクトの学習会→

←「来年の医療・介護の大改悪ゆるすな」と取り組まれる「いのちを守る署名」のスタート集会



←京都市消防団総合査閲に、私の地元の上高野消防分団が左京代表で参加

修学院学区で共謀罪に反対するデモ行進→



○ ひぐち英明 ホット・コム ミニ版 ○

5月の第2日曜日は母の日です。「今日は母の日やで」と妻が次女(中学1年)に声をかけたところ、「お父さんは(父の日でも)そんなことは言わない」との返事。

なかなかつれないことを言うようになったなあと思っていたら、ちゃんとプレゼントのシュークリームが買ってありました。